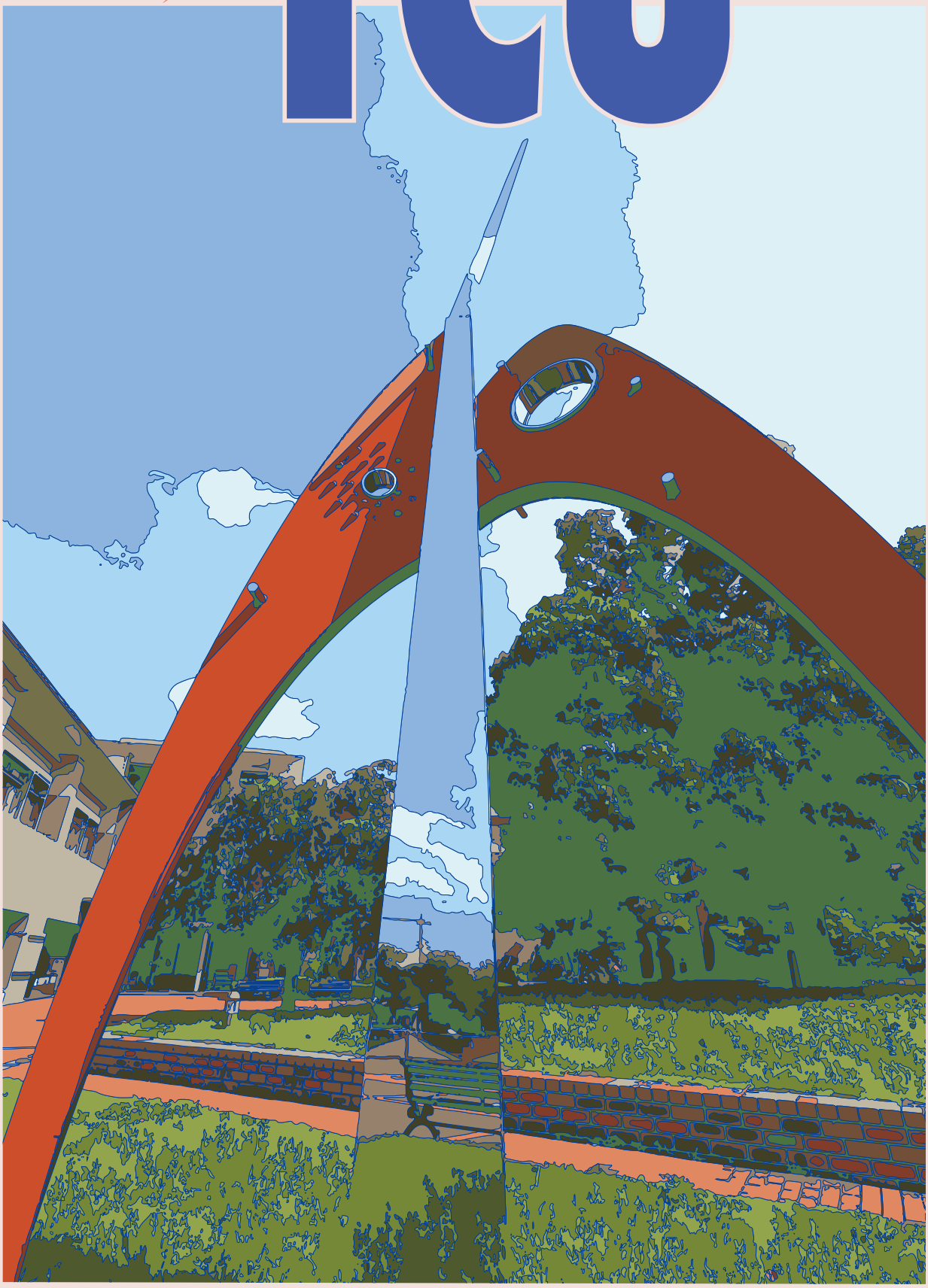
美しい時代へ――東急グループ

広報TCU

2024
WINTER
Vol.002



東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

東京都市大学 新学長に野城智也教授が就任

都市を舞台にイノベーションを起こす大学へ

2023年10月13日開催の理事会において、野城智也（やしろ ともなり）本学総合研究所教授を、11代目の学長に選定いたしました。任期は、2024年1月1日から2026年12月31日までの3年間となります。

野城新学長に、これから本学が目指す姿や学生への期待、今後の展望について伺いました。

キャンパスの立地の良さと多様な教員の専門力を活かして新しい価値を創造する

本学は、1929年の創立以来、長きにわたって、実務能力を備えた、社会から求められる人材を輩出しており、とくに産業界で高い評価をいただいています。私は学長として、この卓越した伝統を守り続けたいと考えています。一方で、18歳人口の減少などの社会的課題に直面し、めまぐるしく変転する予測困難な時代であるからこそ、本学は学生とそのご家族や教職員、そして国内外から信頼され、より魅力的な存在感を放つ大学へと進化し、変わり続けなければなりません。

本学は東京「都市」大学というその名が示すとおり、世田谷・横浜といった都市部の好立地にキャンパスがあります。高度な専門力を有するそれぞれの教員が分野横断的に協働し、新たな価値を創造できる機会に恵まれており、学内での学生と教職員の交流も盛んです。こうした本学ならではの利点を活かし、私は「都市を舞台にイノベーションを起こす大学」を目標に、今後、教育・研究や国際連携、学生支援といった施策に取り組んでいきたいと思います。

イノベーションとは、新しい価値を生み出し、社会に変革をもたらすことです。私は、革新的な新技術による「技術主導型」のイノベーションだけでなく、「作ってみて、使って試してもらい、改良を繰り返す」という「作り手」と「使い手」が相互交流しながら新しいモノ・コトを生み出していく、新しいタイプのイノベーションの推進にも力を注ぎたいと考えています。優れた専門知識を備えた教育・研究者、学生を中心とした「作り手」と、多様な考えや行動指向を持つ「使い手」の市民が混在する“都市”は、イノベーションを起こすポテンシャルに満ちており、その歯車をまわしはじめる役割を本学が果たしたいと思っています。

また、イノベーションには、“意味”を創造する役割もあります。半世紀近く前に発売されたポータブルオーディオプレイヤー「ウォークマン」には、「どこにもない新技術」が用いられていたわけではありません。「音楽を持ち歩く」という全く新しい“意味”を付与したことが画期的で、いまのiPodなどにつながっています。“意味”を創造する舞台として、多様性に富んだ“都市”はその舞台として最適ではないかと考えています。

学生の誰もがイノベーションを起こすことのできる教育・研究環境を提供

学生には、一人ひとりが「都市を舞台にイノベーションを起こす」主役を目指してほしいと思います。本学は「自ら学びたい」との熱い思いで集まった学生と、その学生たちに応えて、教育に情熱をかたむ

けた教員たちが一体となって創立した大学です。「自ら学び、考え、実行する力」を養うことが、本学の教育の根底に流れています。新しい価値を創造するには、この「3つの力」がとても重要です。

イノベーションを起こすために、特別な資質は必要ありません。学生は、本学が提供するカリキュラムを通じ、専門の知識や技術を身につけ、「3つの力」を養うことで、直面する課題を解決し、さらには新しい価値を創造することができるようになるはずです。また社会に出て、いろいろな困難に直面したときこそ、学生時代に身につけたこの「3つの力」が発揮されるはずです。

新たな視点と考え方が身につく様々な施策を推進

世田谷・横浜のキャンパスを有効活用するために、学生と教職員の教育における「双方向性」を高め、学生の持つ個々の力を引き出せる工夫を重ねていきたいと思っています。

学生諸君には、学内で専門知識を深め、友人と出会い交流し、議論し合う機会をできるだけ多く持っていただきたいと考えています。本学は、8学部18学科と2つの研究科を有し、多彩な専門性を持った学生が学び、研究に取り組んでおり、そこには大きな可能性があります。学部学科や学年の枠を超え、様々な友人たちと親交を深めることで、きっと広い視野や新しい価値観を得ることができるでしょう。自分自身の得意分野だけでなく、異分野もぜひ体験してもらいたいと考えています。

本学では、グローバルな人材を育成するための教育体制を整えています。今後も「TAP（東京都市大学オーストラリアプログラム）」をはじめとする留学プログラムや国際交流の推進に、力を注いでまいります。留学は、単に語学力を高めるための機会ではありません。異なる文化や環境の中に身を置くことで、新たな視点が得られ、地球規模で物事を考える力が養われます。海外体験が、イノベーションを起こすきっかけになることを期待しています。

今、時代の変化は急速で、技術も知識も短期間で更新されるようになっています。社会に出た後も、もう一度学び直したい、スキルを高めたいという方々のために、リカレントプログラムを積極的に提供していきたいと考えています。

本学は、2029年10月に記念すべき創立100周年を迎えます。学長就任にあたり、100周年に向かって改めて「都市を舞台にイノベーションを起こす大学」を目指していくことをお約束します。そして、本学での学びで飛躍していきたい学生を広く国内外から受け入れ、優れた人材を育成しながら、豊かな社会を構築する一助となるよう、これからも進化し続けます。

PROFILE

1957年、東京都世田谷区生まれ。1976年、東京大学に入学。東京大学では建築を学ぶ。1985年、東京大学工学系研究科建築学博士課程を修了。1991年に武蔵工業大学（現：東京都市大学）助教授に就任（1998年まで）。その後、東京大学生産技術研究所で助教授、教授、所長を歴任。2013～2016年まで東京大学副学長。2023年本学総合研究所教授。2024年より学長に就任。

野城新学長は、これまでの人生の約3分の2を世田谷で過ごしており、「（東京都市大学がある）世田谷で働けることに縁を感じる」と話します。武蔵工業大学助教授として本学に勤めていたときには、当時の充実した教員の能力を構築する機会の豊かさに驚き、いつか恩返ししようと心に決めていたそうです。東京大学ではラグビーの同好会に所属。大学院の5年間は協会公認レフリーとして活動し、後輩を支えていました。武蔵工業大学の教員時代にもラグビー部に関わっていたそうです。

研究面では、サステナブル（持続可能）建築を専門としています。日本の建築物は寿命が短く、スクラップが多いことに問題意識をもち、建築物の長寿化について研究を行ってきました。「建物を壊さずに内装や設備を更新する方法や、センサーを活用して快適な環境を提供するなど、多様な分野の研究者と緊密に連携しながら研究を進めてきました」と話します。

2023年5月30日

GPSの電波が届かない屋内でも位置推定を可能に ―無線LANとスマートフォンで、エレベーターの中でも自分の位置が分かる―

本学メディア情報学部 情報システム学科 横井利彰教授は、GPSの電波信号強度が弱い屋内でも、位置推定が可能になるプログラムを開発しました。

GPS は人工衛星からの電波を受信して位置を測定するシステムですが、ビルや地下、エレベーターなどの屋内では、信号強度が弱く精度が低下するという課題があります。

今回開発したプログラムは、建物内に既に設置されている無線LAN基地局とスマートフォンのみを用いて、無線LANの受信信号の識別名や周波数帯、強度、基地局との位置関係などを記録・分析することで、GPSの電波が届きにくいビルや地下、エレベーターなどの屋内でも現在位置を推定することが可能となります。

2023年5月31日

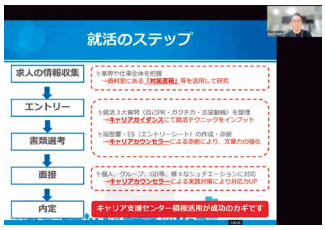
田園調布学園中等部・高等部と高大連携に関する協定を締結

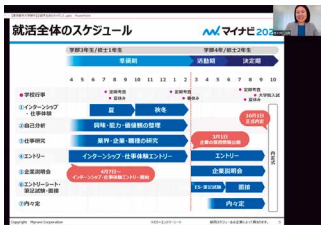
本協定は、相互の教育にかかる交流・連携を通じ、高校生へ探究学習をはじめとするプログラムを提供することで、大学進学までを見据えたキャリア構築のための視野拡大、進路に対する意識高揚とそれに伴う学修意欲向上とともに、東京都市大学が求める学生像及び教育内容への理解を促進し、高校教育及び大学教育の一層の活性化を図ることを目的とするものです。

2023年6月3日

2023年度「留学生就職支援プログラム」をオンラインにて開催しました

今回で15回目を数える同プログラムは、本学に在籍する留学生を対象に、日本の就職に関する最新情報提供を目的に実施しています。当日は、本学キャリア支援センターより、先輩留学生を含めた本学の進路状況や就職先、日本での就職活動の対策、同センターの活用方法について説明しました。





2023年6月20日

文部科学省 令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択されました

同事業は、デジタル・グリーン等成長分野に関する能力を身につけた即戦力人材を社会に輩出するため、大学・高等専門学校等に対し、産業界や社会のニーズを満たすリカレント教育プログラム開発・実施・横展開に向けた支援を行うものです。実施内容はAからDまでの4分野があり、本学は「メニューA：デジタル分野・グリーン分野リスキルプログラムの開発・実施」において「TCU－DX・GXリスキルプログラム」が、「メニューC：各分野のエキスパート人材育成に向けたプログラム開発・実施」においては「TCU－リカレントプログラム」が採択されました。

2023年6月21日

2023年度 五島育英基金奨学金授与式を開催しました

五島育英基金奨学金授与式が各キャンパスにて行われ、奨学生69名、部活動3団体に奨学・奨励金が給費されました。五島育英基金奨学金は、博士前期課程・学部の2年次以上で学業成績・人物とも優秀な学生に対して学校法人五島育英会より給費される奨学金です。五島育英基金部活動奨励金は、学生生徒の士気の高揚に著しく貢献する等、特に育成の必要ある部活動に対して給費される奨学金です。

詳しくは、各QRコードよりご覧いただけます。

2023年6月27日

～環境省「水素内燃機関活用による重量車等脱炭素化実証事業」～「既販中型重量車の水素エンジン化事業性検証プロジェクト」において富山県内にて貨物輸送に向けた実証走行試験を開始

2021年8月より、本学と4社共同で実施している「既販中型重量車の水素エンジン化事業性検証プロジェクト」において、富山県内にて貨物輸送に向けた実証走行試験を開始し、出発式を実施しました。

2023年6月28日

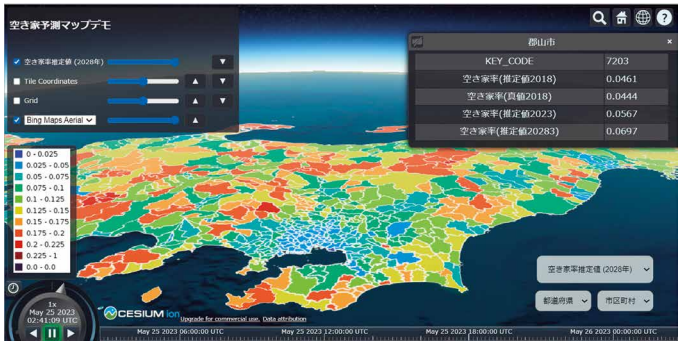
世田谷キャンパス「学生と大学との懇談会」を開催しました

本会は「学生のみなさんと一緒に、より良いキャンパスづくりを目指す」ことをスローガンに、本学の教育・学生生活などの改善および充実を図ることを目的として、毎年開催しています。当日は、学生や教職員に加え、学内業者の方も参加し、「授業・研究」「課外活動」「学生生活」の3つのテーマについて意見交換を行いました。

2023年7月3日

日本初！全国をカバーする将来の空き家予測マップを開発

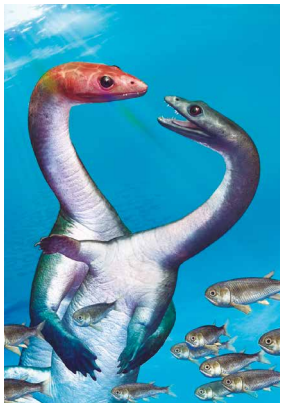
本学建築都市デザイン学部 都市工学科 秋山祐樹准教授が開発した技術（マップ）は、総務省が実施し、オープンデータとなっている「国勢調査」と「住宅・土地統計調査」を活用するものです。市区町村ごとの人口動態や空き家率などの情報を機械学習によって解析することで、実態調査が行き届かないエリアを含めた全国の現在と将来（2018年、2023年、2028年）の空き家率を予測することが可能です。



2023年7月4日

世界初、中生代爬虫類の思春期を特定 ―古生物における性的二型の発達のタイミングが明らかに―

本学理工学部 自然科学科 中島保寿准教授らの研究グループは、約2億4000万年前の地層から発見される海生爬虫類「ケイチョウサウルス」の骨を顕微鏡で解析することによって、誕生後2年間で急速に成長することやオスとメスの形態差が誕生後1年目から2年目にかけて現れることを明らかにしました。今回の発見により、化石爬虫類が成長する過程で性別による形の違い（性的二型）の現れる時期、すなわち「思春期」を初めて特定しました。



画像©Takumi

2023年7月5日

「留学生交流会」を開催しました

同交流会は、留学生同士の交流を深めることはもちろん、日本人学生および教職員との交流を促進することを目的としています。今年度は、8ヵ国の入学者を含む留学生と、留学生サポーターの総勢74名が参加しました。

2023年7月7日

国際学生寮にて「七タイベント」を開催しました

七夕は、7月7日に織姫と彦星が天の川を渡って、年に一度相会する日とされており、短冊に願い事を書いて、星に願う日として、日本では親しみのある行事です。

当日は、RA（レジデントアシスタント）を中心に、現在、国際学生寮で暮らす13名の留学生たちに、七夕行事についてどのように伝え、どのように過ごすのかを改めて考えながら、七タイベントを企画しました。また翌日には、RAと寮生8名とで多摩川浅間神社へ、全寮生50名分の願い事を奉納しました。

2023年7月26日

【東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）】留学プログラムアワード及び協力企業賞授与式、「派遣学生壮行会」&「留学準備研修会」を開催しました

「留学プログラムアワード」とは、TAPで履修した科目の成績や、留学出発前後に受験するTOEICテストの成績などを総合的に判断し、「学校法人五島育英会 夢に翼を奨学金」を授与するもので、今回は7名が受賞しました。続いて派遣学生の壮行会と留学準備研修会が行われ、壮行会では、来賓の在日オーストラリア大使館政務担当公使より祝辞を頂戴しました。また派遣学生が、留学に向けた決意表明のスピーチを行いました。

2023年7月25日※

※本学ウェブサイトへの掲載日

文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の支援1及び支援2の両方に選定されました

同事業は、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学や高等専門学校が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、機動的かつ継続的な支援を行うものです。なお、選定されたのは計111校118件（支援1選定：67件、支援2選定：51件）で、両方に選定されたのは本学を含む7校（私立4校）のみです。

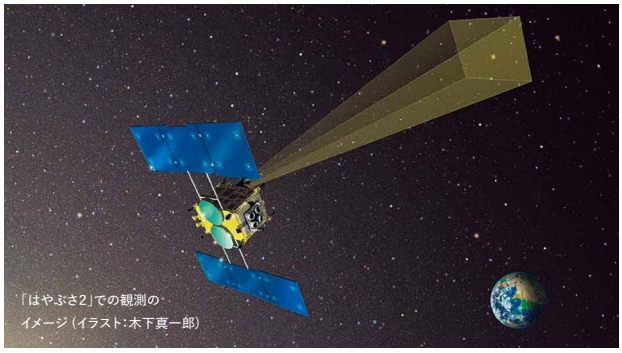
2023年8月23日

機能性複合材料の組織を決定する画像解析技術を開発 ―低誘電損失材料や高熱伝導性材料の設計に貢献―

本学理工学部 応用化学科 宗像文男教授とデザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科 佐藤圭浩講師は、機能性複合材料の組織構造を定量評価するための画像解析技術を開発しました。今回開発した画像解析技術は、新材料の設計・開発に役立つことが期待されます。

2023年8月22日

「はやぶさ2#」の旅路から、惑星間塵の分布の検出に成功 ―NASAの探査機が観測して以来約半世紀ぶりの成果―



「はやぶさ2」での観測のイメージ（イラスト：木下真一郎）

本学の津村耕司准教授らと、JAXA「はやぶさ2」ONCチームでつくる研究チームは、小惑星探査機「はやぶさ2」が2020年12月6日の地球帰還後、別の小惑星へ向かう拡張ミッションの航行中に黄道光観測を実施し、内惑星領域における惑星間塵の分布を計測することに成功しました。惑星間塵は太陽系内を浮遊する小さな塵（ダスト）であり、太陽系内に存在する最小の天体です。それらがどこで形成され、太陽系内をどのように移動しながら分布しているのかを探ることは、太陽系の進化史を探る上で重要です。本成果は惑星間空間を航行する「はやぶさ2」探査機の光学カメラを利用して黄道光を長期間観測することで、地球近傍からの黄道光観測では得られない惑星間塵の分布情報の取得に成功しました。

詳しくは、各QRコードよりご覧いただけます。

2023年9月10日

第21回「大学で楽しもう!!小学生・中学生のための科学体験教室」を開催しました

2002年度から開催している本イベントは、体験学習を通じて子どもたちの科学に対する関心と学習意欲を高め、創造性や好奇心、探求心の育成を目的としています。また、本学の学生・教職員が一体となって運営し、学生たちが自ら考え実行し、改善をする課題解決型学習の機会にもなっています。

今年度は、「色々な科学にふれよう」をテーマに化学・情報・建築・防災・環境・造形など幅広いジャンルの23プログラムを実施し、東京都市大学グループ校（付属中学校・高等学校、等々力中学校・高等学校、塩尻高等学校）からも出展がありました。当日は、小中学生342人とそのご家族の方々にご参加いただきました。

2023年9月17日、18日

学園祭「第27回 横浜祭」を開催しました

4年ぶりに対面型のみで開催した今年度の横浜祭のテーマである、「Dynamic」は、新型コロナウイルスの影響で失った「キャンパスでの学生の活発さ」を取り戻し、「力強く生き生きとした横浜祭を作り上げたい」という願いが込められています。学園祭当日は、両日とも晴天に恵まれ、地域の方々や本学関係者など約4,000名の来場者を迎えました。

2023年9月15日

2023年度「全学FD・SDフォーラム」を開催しました

本フォーラムは、本学が将来にわたって高等教育機関としての役割を果たしていくため、全教職員の共通認識を育む大変貴重な機会となっており、毎年開催しています。

2023年9月19日

世界初、変換効率が30%に迫る、曲げられる太陽電池を開発 ―新構造の薄型シリコン太陽電池にペロブスカイト太陽電池を積層―

本学理工学部 電気電子通信工学科 石川亮佑教授は、結晶シリコンウエハーの厚さを薄くしても性能が高いシリコンヘテロ接合太陽電池を作製し、その上にペロブスカイト太陽電池を積層化することで、軽くて曲げられる太陽電池を開発しました。

2023年9月26日

ドローンの屋内飛行時における安定化技術を開発 ―圧力回復孔を設けた回転翼を開発し、上壁近傍での推力上昇を抑制―

本学理工学部 機械工学科 西部光一准教授らと東急建設株式会社は、ドローンが上壁（橋桁や天井などの構造物）近傍での飛行時に制御不能になることを予防し、安定化させる新技術として、圧力回復孔を設けた回転翼（プロペラ）を開発しました。また、回転翼は比較的単純な構造でできており、既存ドローンへの適用が容易なことから、様々な大きさのドローンへの応用も期待されます。

(a) 従来翼搭載

(b) 発明翼（o/D = 0.5)搭載

TOPICS 2023.5 >>> 2023.11

詳しくは、各QRコードよりご覧いただけます。

2023年10月4日

横浜キャンパス「学生と大学との懇談会」を開催しました

懇談会当日は、学生や教職員に加え、学内業者の方も参加し、「課外活動」「授業・研究」「生活環境・学生生活」「その他」の4つのテーマについて、学生と大学とが直接意見交換できる貴重な機会となりました。今後も、キャンパスライフの充実に向けた改善活動の一環として継続していきます。

2023年10月6日

JST・革新的GX技術創出事業（GteX）に本学からの提案が採択されました

本事業は事業全体を統括するプログラムディレクター（PD）の下、日本の将来の産業成長と2050年カーボンニュートラルを達成する上で重要な技術領域である「蓄電池」、「水素」、「バイオものづくり」において、分野や組織を横断した全国のトップ研究者の連携体制を構築し、革新的GX技術の創出に向けた研究開発推進を支援する制度です。今回、採択された研究開発課題31件のうち私立大学で採択となったのは本学含めて5大学のみでした。

2023年11月4日、5日

学園祭「第94回 世田谷祭」を開催しました

今年度の世田谷祭のテーマである『百花繚乱』には、学園祭を華やかに成功させたいという意味に加え、来場者の方々にもたくさんの花が咲き乱れるような華やかさを感じてもらいたいという願いが込められています。好天に恵まれた当日は、5年ぶりに対面型のみで開催され、高校生やその保護者、地域の方々を含め、2日間で約6,000名の来場者を迎えました。

新たな「教養」を実装する。社会のニーズを反映した実践的なプログラム

東京都市大学 リカレントプログラムを開講

本プログラムは、企業や地域・産業界と連携して、本学が得意とする応用的なデジタル・グリーン分野、専門的実践力の知識・技術の修得を目指す、社会人向けの実践的なプログラムです。社会のニーズを的確に反映させるため、各分野で高い知見を持つ方の協力により事業実施委員会を設置し、職務におけるデジタル化への対応や、自らの職務におけるイノベーション等の実践に寄与する科目を開講します。職業に直接必要な知識と広い視野を学ぶ**「TCU-DX・GXリスキルプログラム」**と、先端的な専門知識と広い視野を学ぶ**「TCU-リカレントプログラム」**の2つを用意しています。また、講師には、本学の教授陣を始め、専門の分野に秀でた特任教員の招聘を行うなど、授業の質を高めています。

本プログラムは、文部科学省の令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択されています。

ブレンド型授業が深い学びと課題の共有を実現

プログラムの開講科目は、必要に応じて選択し受講することが可能です。知識の習得を行うオンデマンド配信による授業とディスカッションが中心の対面授業とを繰り返し行う「ブレンド型学習」で、学習効果の向上を実現します。対面授業では、参加者のコミュニケーションを活発にし、問題意識を共有することでイノベーション創出を後押しします。

オープンバッジ

オープンバッジ※で「学習歴」を保証します

学習内容をより細かい単位に分けるマイクロクレデンシャル制度を導入しているため、科目単位で受講することが可能です。学習歴は受講終了後にデジタル化し、学習を証明するための「オープンバッジ」が授与されます。また、自分専用のオープンバッジウォレットで一元管理ができ、キャリアを彩る証明書として活用することが可能です。

※世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明・認証

対面授業の受講場所　**渋谷サテライトクラス（渋谷）／世田谷キャンパス（尾山台）**

お問い合わせ先：**キャリア支援課（リカレントプログラム担当）E-mail：recurrent@tcu.ac.jp**

詳しくは、こちらのQRコードをご確認ください。

法人本部移転および事務組織統合のお知らせ

2023年10月1日、事務組織・事務機能の強化及び最適化を目的に、学校法人五島育英会 法人本部を渋谷区から東京都市大学世田谷キャンパスに移転して、新たに学校法人全体を所管する事務組織といたしました。

今回の統合を機に法人本部、大学事務局、高校以下の設置学校事務室に所属する職員の帰属意識を設置学校事務室「各校」から「東京都市大学グループ」全体に転換することを通じ、意識改革・行動変革を促し、個々の成長に繋げ、最終的には組織力の強化及び最適化を目指します。

学校法人五島育英会の組織図は、こちらのQRコードをご確認ください。 ▶

本学のサテライトキャンパスとして、多種多様な活動を展開した約9年間

FUTAKOTAMAGAWA YUME CAMPUS

二子玉川 夢キャンパス

2015年の開設以来、本学の教育研究活動をはじめ、子どもたちへ科学の楽しさを伝えるためのイベントや、地域・産業界が抱える課題を解決するために展開してきた約9年間の主な活動とその実績を紹介します。
2015年6月、「本学の研究成果発表と展示施設」、「産官学・社会連携事業の実施拠点」、「キャンパス横断型教育研究及び高大連携事業の拠点」を目的に、本学のサテライトキャンパスとして二子玉川ライズに開設した本施設は、「4つの活動方針」を柱に、学生自らが企画・運営したイベントの開催や本学と地域の企業・団体が連携した取り組みなど、社会に向けた情報発信を行う拠点となりました。
また、二子玉川駅からすぐの位置ということもあり、本学学生は、学生団体活動やグループ学習、自学自習などに幅広く利用してきました。

これまでの「夢キャンパス」の活動件数と総来場者数の実績

（2015～2023年度）

この度「夢キャンパス」は、2024年2月25日に開催予定の「夢フェス」を最後に施設を閉じることになりましたが、約9年間にわたる活動件数は、累計で約2,100件、総来場者数も約10万人に上ります。コロナ禍では、感染症対策や来場制限のある活動となりましたが、学生が主体となってオンラインを活用した企画を模索するなど、地域との繋がりを絶やさないよう工夫しました。その結果、コロナ禍後は、活動件数・来場者数ともにV字回復へと向かいました。

活動件数
約2,100件
（累計）

総来場者数
約10万人
（累計）

「夢キャンパス」4つの活動方針

1 教育研究活動

本学の学生や教職員が中心となり、自らの学びの成果を社会へ還元し、共有・発展させていく教育研究活動を展開してきました。また、各種発表会・講演会などを積極的に開催しました。

小池情報デザイン研究室
2022年度 卒業展覧会
（2023年3月）

2023年度 プラチナ未来人財育成塾
（2023年8月）

2 地域との連携活動

自然保護や教育・子育て・福祉のことなど、現代社会が抱える諸問題に、地域の企業や行政、市民団体と連携しながら、本学の学生・教職員が豊富な専門性を活かして取り組んできました。

親子こうざ
「ぼうさいマイ・タイムライン」
（2021年10月）

City Nature Challenge
2023-Tokyo
（2023年4月～5月）

3 子どもたちに学ぶ喜びを伝える活動

子どもたちが科学の楽しさと魅力にふれる各種ワークショップを開催してきました。夢キャンコミュニケーターや研究室などが主体となり、科学のおもしろさやものづくりの楽しさを次世代に伝えてきました。

みんなの“ぺいんとハウス”
（2022年10月）

夢のまちを作ろう！第2弾
（2023年2月）

4 都市大グループの連携活動

都市大グループは、幼稚園をはじめ、小・中学校、高校、大学、大学院まであらゆる学齢をカバーしています。夢キャンパスはその連携拠点として、グループのスケールメリットを生かした活動をしてきました。

50歳からの講習会
「パソコン入門」「ワープロ入門」
（2022年10月）

東京都市大学 校友会川崎支部
「エレクトーンサークル"sky tone"
によるミニコンサート」
（2022年11月）

Yume Campus Communicator

夢キャンパスと共に歩んだ
夢キャンコミュニケーターの歩み

「夢キャンコミュニケーター」は、2016年8月に発足しました。当初は3名でしたが、現在では約70名※になり、学生ならではの自由な発想で、本学を盛り上げていく存在になることを目指してきました。
約4,000人の来場者をお迎えした「第3回夢祭」をはじめ、小学・中高生を対象にしたワークショップなど、主催してきたイベントはバラエティに富んでいます。
学内の「第5回都市大研究プレゼンコンテスト」では、同コミュニケーターが「夢キャンパス」での活動を通して学んだことを発表し、最優秀賞を受賞するなど、その活動内容が高い評価を受けました。
また、二子玉川のウェブメディア「Futakoloco（フタコロコ）」の編集メンバーとして携わり、地域との連携活動にも積極的に取り組んでまいりました。
2024年3月からは、拠点を世田谷キャンパスに移しますが、これからも新たな目標に向かって活動していきます。 ※2023年11月末日時点

▲第3回 夢祭
～みんなで「つくる」みんなの学園祭～
（2019年9月）

2024年 2月24日（土）・25日（日）

第2回 夢フェス YUME FES

第1回 夢フェス（2023年3月）の様子はこちらでご覧いただけます

学生が主体となって開催するイベントです。サークル活動や研究室の学生に加え、夢キャンパスに携わってきた地域団体、同コミュニケーターのOB・OGも参加するなど、ワークショップ型のブースを出展します。 詳細は夢キャンパスのウェブサイトで掲載予定です

2024年 3月
夢キャンパスのウェブサイトにて「活動報告書」を公開予定です

夢キャンパスのウェブサイトはこちら

Yume Campus Activity Report

詳しくは、各QRコードをご確認ください。

① 夢キャンコミュニケーターが「七夕フェス!」を開催

▶ 2023年7月9日（日）

夢キャンコミュニケーターが小学生対象の「七夕フェス!」を主催しました。七夕にちなんだ2つのワークショップ企画を行い、約100名の子どもたちが参加しました。

▲3Dペンで七夕ブレスレットをつくろう!

▲キラキラ万華鏡をつくろう!

② 「七夕 de 夢キャンパス2023」をオンラインで開催

▶ 2023年7月9日（日）

夢キャンパス開設以来、毎年開催の本イベントでは、全国からオンライン投稿された約100件の願い事をウェブサイトで公開しました。また、同時開催の「七夕フェス!」に参加した子どもたちが、願い事を書いた短冊を横浜キャンパスから運んだ大きな笹に飾りました。

③ 人間科学部学生会が「こども縁日」を開催

▶ 2023年7月16日（日）

人間科学部学生会が、3歳以上の未就学児を対象とした「こども縁日」を開催しました。ゲームや工作など5つの企画ブースで、子どもたちに日本ならではの文化を体験してもらいました。

④ 夢キャンコミュニケーターが「3Dプリンターでネームストラップをつくろう!」を開催

▶ 2023年8月15日（火）、17日（木）、19日（土）

夢キャンコミュニケーターが、小学3年生～6年生を対象に、子どもたちに人気の高い3Dプリンターでネームストラップを作るイベントを開催し、3日間で約40名が参加しました。

⑤ 鉄道研究部が「僕らの夢を乗せた電車は走り続ける8」を開催

▶ 2023年8月13日（日）～20日（日）

鉄道研究部主催の本イベントでは、数々の鉄道模型が展示され、Nゲージの運転体験は、子どもたちの人気を集めていました。4年ぶりに入場制限なしで実施され、8日間で約1,000人の方々に、ご来場いただきました。

⑥ 「ペーパーブリッジコンテスト」を開催

▶ 2023年10月7日（土）、8日（日）

夢キャンコミュニケーターが主催し、建築都市デザイン学部の1年生が企画した本イベントは、「橋」について小・中学生に興味や関心を持ってもらうことを目的に開催されました。参加者は、橋の構造を学んだあと、紙と養生テープで橋を作り、強度を競いました。

国籍や性別、ハンディキャップに関わらず、あらゆる人材が活躍できる社会の実現を目指す

ダイバーシティ推進室

Diversity Promotion Office

誰ひとり取り残さない社会を目指すためには、文化や宗教を超えた理解の輪を広げることが前提となります。その輪を広げるため、本学は「ダイバーシティ推進室」を設置し、LGBTQに代表されるマイノリティーへの配慮やハンディキャップを持つ方が不自由なく過ごせるキャンパスの環境づくり、女性が真に活躍できる学内の体制づくりなど、学生と教職員が一体となって、誰もが等しく学び、成長し、高めあうことのできる大学を目指しています。

ウェブサイトはこちら

活動の紹介

2022～2023年にかけて実施した、主な取り組みを紹介します。

環境整備プロジェクト

多目的トイレマップを作成

世田谷・横浜キャンパスに設置している多目的トイレの利用を促進するため、「多目的トイレマップ」を作成し、ウェブサイト上で適宜更新しています。

こちらのQRコードをご確認ください。

玄関マットおよび表示板の設置と防滑加工

アンケート等で多くの意見が寄せられた、滑りやすい場所の転倒防止策として、世田谷キャンパスにて、玄関マットや「足元注意」の表示板設置、路面への防滑加工を施しました。

場　所	転倒防止策
1号館出入口	玄関マット設置＋「足元注意」の表示板設置
8号館出入口	路面の防滑加工
9号館前通路	路面の防滑加工＋「足元注意」の表示板設置

「ユニバーサルマップ」の制作

障がい学生支援に関わる活動の一環として、本学施設のバリアフリー情報などを記載した、「ユニバーサルマップ」の制作を進めています。

祝日授業日、土日勤務に伴う一時託児サービス

教職員の多様な働き方支援の一環として、祝日授業日や土曜・日曜の勤務の際に、本学世田谷キャンパスの子育て支援センター「ぴっぴ」を利用し、一時託児サービスを実施しています。

意識改革プロジェクト

ダイバーシティ推進ワークショップの開催

2022年度に行った「ダイバーシティ推進への理解度チェック」で得た教職員からの意見を難易度とコストの2つの観点から分類し、ダイバーシティ推進室の委員および室員を交えて、取り組むべき事項の実現に向けたプロセスを議論しました。

「イクボス連載企画」の掲載

部下のキャリアと人生を応援し、仕事と生活の両立が図りやすい環境の整備に努める上司「イクボス」をテーマに、TCUダイバーシティ通信では、本学教員の寄稿を連載企画として掲載しました。

「SDGsポスター」の掲示

ダイバーシティに関するSDGsの目標を広く周知するため、ポスターを制作し、世田谷・横浜キャンパスで掲示しています。

各種アンケートの実施と結果報告

「SOGIへの理解を深めるためのチェックリスト」や、「アンコンシャス・バイアスに関するチェックリスト」など、学生や教職員向けに各種アンケートを実施し、TCUダイバーシティ通信で結果を報告しています。

次世代育成プロジェクト

本学学生と教職員の交流イベントを開催

「ランチ交流会」や「カフェトークセッション」など、本学教員の講演や大学院生によるトークセッションを通じて、進路・進学に対する不安などを払拭するイベントを企画、開催しました。

(株)ADEKA共催「進路選択応援プログラム2022」を開催

都市大グループである東京都市大学等々力中学校・高等学校にて、進路選択の一助を目的に、理工系学部を卒業した女性研究者の職場や活躍の様子を紹介しました。

「STEM教育連携ワークショップ」を開催

本学とカリフォルニア大学サンタバーバラ校をオンラインで結び、女子学生に理系分野で活躍してもらうためのSTEM（科学・技術・工学・数学）教育に関するワークショップを開催しました。

ダイバーシティ推進のための各種支援

詳しくは
こちらのQRコードを ▶
ご確認ください。

●多目的トイレの設置

世田谷・横浜キャンパスに、オストメイトやベビーシート機能、車いすに対応した多目的トイレを設置しています。

●研究者復帰等支援制度

本学に勤務する研究者のライフイベント中（妊娠・出産・育児・介護等）の研究継続・推進を図ることを目的としています。支援対象者には研究補助および研究活動にかかる諸業務を支援する「リサーチサポーター」を配置します。

●教職員向け～企業主導型保育施設の利用

本学は、(株)東急キッズベースキャンプが運営する企業主導型保育施設「KBCほいくえん」と利用提携契約を結んでおり、本学教職員は保育利用枠の提供および従業員枠料金で同施設を利用できます。

●育児・介護相談窓口

よりよい教育・研究活動を行うため、教職員のライフイベントに応じた就労支援に関する相談窓口を設置しています。

刊行物の紹介

詳しくは、各QRコードをご確認ください。

▶TCU ダイバーシティ通信

年3回発行。本学の様々なダイバーシティ推進活動を紹介しています。

▶ダイバーシティ カレンダー用語集

ダイバーシティに関する用語の解説を掲載した卓上カレンダーを教職員に配布し、学内の理解向上に努めています。

▶卒業生・教員 ロールモデル集

社会で活躍中の卒業生の姿、本学の多様な教員たちの研究や私生活の一部をウェブサイトで紹介しています。

ダイバーシティ推進室 マスコットキャラクター「ダイバ」

ダイバーシティをより身近に感じ、当室の活動に興味を持って頂きたいとの思いから、マスコットキャラクターのデザインを本学学生から募集しました。選ばれた「ダイバ」のモチーフは、寿命の長いホッキョククジラです。後方のリングの○、△、□は個性を表現し、個々が互いの個性を認め合い、尊重しあって大きな円をつくっています。

室長からのご挨拶

ダイバーシティ推進室　室長　伊東明美

本学では、2009年度に文部科学省科学技術振興調整費に採択され「女性研究者支援室」を開設して以来、とくに理工系分野における女性の活躍を促進するため男女共同参画を推進してまいりました。2019年に室名を「ダイバーシティ推進室」に変更してからは、本学のダイバーシティ環境の実現に向け、様々な取り組みを行っています。

当室は本学の建学の精神である「公正、自由、自治」に基づき、性別や国籍、民族、宗教、さらに障がいの有無にかかわらず、この大学で学び働く全員が、幸せに過ごすことのできるキャンパス環境の実現に向けた活動を引き続き推進してまいります。

「共に学び、共に働き、共に築く」をキーワードに、みなさまからのご意見を柔軟に取り入れてまいります。今後も当室の活動に対するご理解とご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

留学プログラム＆国際交流

本学では、「実践的な専門力」を有し、「世界で活躍」できる人材を育成するため、国際的な教育・研究環境の整備に取り組んでいます。

グローバル人材育成プランの一環として、新入生の約4人に1人が参加するTAPをはじめ、アジア・オセアニア地域のトップランク大学への交換留学など、学生の修学目標や状況に合わせて選択できるプログラムを提供しています。その他、学内やオンラインで英語を学べるプログラムや、国内にいながら異文化交流ができる留学生サポーター制度など、多様性を受け入れ国際性を磨くための様々な機会があります。

PROGRAM CONTENTS

海外で

- A 短期留学（夏休み、春休みを利用した）
- B 海外インターンシップ（世界で活躍する力を身に付ける）
- C TAP（オーストラリアで行う本学独自の国際人育成プログラム）
- D ATAP（英語上級者のためのTAP上級プログラム）
- E 長期留学（専門性を深め、学位を取得する）

国内で

- F 英語学習（キャンパスでもオンラインでも国内で学ぶ）
- G 国際交流（学内の制度やイベントを利用した）

海外で

A 短期留学と E 長期留学の「AOFUA」について詳しくは、こちらをご確認ください。

A 短期留学

- STEP(Study Tour & Experience Program)
- グアム大学英語研修プログラム
- デラサール大学英語研修プログラム
- SCUPサザンクロス大学英語研修プログラム
- AOFUA(アジア・オセアニア5大学連合)サマーキャンプ

学科・研究室単位で開催される海外体験を目的としたプログラムをはじめ、グアムやフィリピン、オーストラリアの大学で行われる英語研修プログラムなど、夏休み、春休みを利用した短期留学です。また、AOFUAが主催するサマーキャンプでは、AOFUA加盟大学の学生とともに、SDGsの課題解決に向けたグループワーク等に取り組みます。

B 海外インターンシップ

海外の職場で現地の人と働きながら、グローバル社会で活躍するための力を身につけます。本学での学びを実践するとともに、異文化に触れる貴重な機会です。本学では、派遣前の事前教育から派遣中はもちろん、帰国後も学生たちをサポートします。また本プログラムは、2020年の「第3回 学生が選ぶインターンシップアワード」において文部科学大臣賞を受賞しました。

C TAP 東京都市大学オーストラリアプログラム　D ATAP(Advanced TAP)

「TAP」は、1年次に行われる国内での準備教育（100日間の英会話レッスン）と2年次の約4ヵ月間のオーストラリア留学を組み合わせた2年間にわたる本学独自の留学プログラムです。参加条件は問いませんので、英語力に自信がない学生でも、安心して留学することができます。

「ATAP」は、「TAP」の上級プログラムとして、オーストラリアのクイーンズランド工科大学に留学し、現地学生と共にディプロマコースで学びます。参加条件としてIELTS5.5以上の英語力が求められます。

TAP、ATAPについて詳しくは、こちらをご確認ください。

E 長期留学

- AOFUA 2大学を巡る交換留学プログラム
- TEP 海外協定校への交換留学
- 認定留学
- AOFUA ダブルディグリープログラム
- ジョイント・ディグリープログラム
- 次世代研究者挑戦的研究プログラム
- 国費外国人留学生優先的配置プログラム

AOFUA加盟大学などとの交換留学をはじめ、大学院生を対象にした、留学先の学位を取得するプログラムや提携大学で共同研究を行うなど、専門知識と語学力を活かした本格的な長期留学です。

国内で

F 英語学習

●毎日学べる英会話　●GLP(Global Leadership Program)　●オンライン英語学習(English Central)

国内で学べる英語学習として、毎日40分、週5回(月～金)、学内で英会話レッスンを開講しています。授業の隙間時間を有効活用して、無理なく続けられます。また、自分のスケジュールに合わせて受講したい学生には、オンラインライブレッスンやE-learningとオンライン英会話レッスンを組み合わせた学習プログラムがあります。就職や大学院進学に向けて、英語力を伸ばしたい学生や留学から帰国して、英語力を維持したい学生にもおすすめです。

G 国際交流　留学生サポーター制度

本学の日本人学生が、主体的、積極的に留学生の学生生活をサポートするための制度です。新入留学生の大学生活スタート支援から、留学生交流会といった各種イベントの企画・運営など、学内外での様々な支援活動を展開しています。留学生と接する機会が多く、英語力やコミュニケーション力の強化にもつながります。

●国際学生寮　外国人だけでなく、日本人にも開かれた国際交流の場

世田谷キャンパスから徒歩約3分に位置する国際学生寮。世界各地からの留学生とともに、日本人学生も入寮しており、国際的な交流活動の場となっています。1階の国際ラウンジには和室やキッチンがあり、多国籍料理や多言語での会話を楽しむ姿が見られます。

国際センター長からのメッセージ

異文化に触れることで、将来の可能性が広がる

国際センター長 田口 亮 教授

近年の日本企業を取り囲む環境はますますグローバル化し、国際的な取引も拡大しています。このような中で活躍するには、英語力に加えて、異文化への理解が不可欠となります。本学では、学生たちがこれからの社会の変化に柔軟に対応できるよう、専門的な知識だけではなく、英語力と国際性を身につけることの重要性を強調しています。

異文化に触れる機会が早いほど、素早く環境に適応し、多くのことを吸収できます。そのため、社会人になってからではなく、学生のうちに異文化交流を体験してほしいという思いから、学生の目標や状況に合わせ、国際性を身につける機会を提供しています。語学力や留学すること自体に不安を感じる学生には、国内で行なう英語学習や国際交流プログラムを用意しています。また「TAP」は、英語力に不安があっても安心して参加できるようになっています。このプログラムでは、約4ヵ月間のオーストラリア留学を体験しますが、その前の準備教育として、100日間の英会話レッスンを行います。しっかりと準備を行うことでより充実した留学ができます。英語を得意とする学生や積極的に留学に挑戦したい学生には、長期留学プログラムを用意するなど、いずれのプログラムでも英語学習の効果を最大限に発揮できる工夫をしています。

留学を通して得ることができる、新しい環境や価値観に身を置く経験は、将来の仕事や人間関係において必ず役立つでしょう。学生たちが自らの可能性を最大限に引き出し、国際社会で活躍する人材となるよう、教職員が一体となり、留学の準備段階から帰国後のキャリア構築まで、一貫したサポートに努めていきたいと思っています。

留学プログラム・国際交流のご相談は、国際支援課の専門スタッフへ。

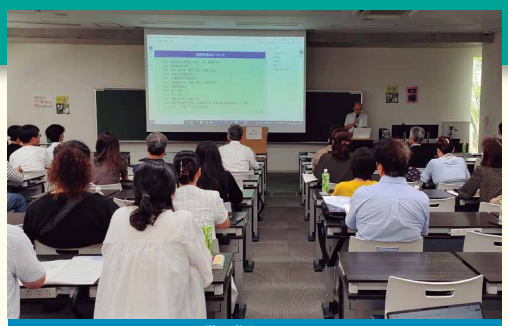
世田谷キャンパス7号館2階

国際支援課には日本語の話せる外国人スタッフが常駐しています。各留学プログラムの案内や海外生活のアドバイスなど、充実した留学を送るためのサポートをします。また、語学講座や語学試験についてもお気軽にご相談ください。留学プログラム・国際交流について詳しくまとめたパンフレットを窓口で配布しています。ぜひ、お立ち寄りください。

お問い合わせ先：**国際支援課（留学プログラム担当）　E-mail：studyabroad@tcu.ac.jp**

2023年度

「保証人対象 大学との連絡会」全国21会場で開催



世田谷キャンパス

横浜キャンパス

2023年度「保証人対象 大学との連絡会」が9月2日より、全国21会場で開催されました。この連絡会は本学と本学後援会の共催行事として世田谷キャンパス、横浜キャンパスはもちろんのこと、在籍者の多い各都市で開催しております。今年度は、全会場あわせて1,543世帯2,218名にご参加いただきました。連絡会では担当の教職員より大学の近況に加え、学修関係、学生生活関係、就職関係を中心にお話しをし、参加した保証人の皆様より熱心な質問が寄せられました。

世田谷・横浜キャンパスで開催された連絡会の様子は、同封の「TCU-COM」2～4Pで紹介しています。併せてご覧ください。

次年度の同連絡会に関するご案内は、2024年7月頃を予定しています。（郵送にてお届け予定）是非、ご参加ください。

会場別出席者数（対象県以外からの出席者含む）

開催地	開催日	会場名	出席者数（世帯数）
札幌	9月2日（土）	ニューオータニイン札幌	3
郡山	9月2日（土）	郡山ビューホテル本館	9
仙台	9月3日（日）	仙台ガーデンパレス	15
宇都宮	9月2日（土）	チサンホテル宇都宮	18
水戸	9月2日（土）	三の丸ホテル	13
さいたま	9月9日（土）	ロイヤルパインズホテル浦和	28
新潟	9月2日（土）	ホテルオークラ新潟	9
高崎	9月3日（日）	高崎ワシントンホテルプラザ	8
世田谷	9月30日（土）	東京都市大学　世田谷キャンパス	1,053
横浜		東京都市大学　横浜キャンパス	278
甲府	9月9日（土）	アーバンヴィラ古名屋ホテル	11
長野	9月9日（土）	ホテルメトロポリタン長野	12
金沢	9月10日（日）	ANAクラウンプラザホテル金沢	5
沼津	9月2日（土）	沼津リバーサイドホテル	11
静岡	9月9日（土）	ホテルアソシア静岡	11
浜松	9月10日（日）	オークラアクトシティホテル浜松	13
名古屋	9月9日（土）	名古屋 東急ホテル	11
大阪	9月10日（日）	ホテルグランヴィア大阪	9
広島	9月9日（土）	ホテルグランヴィア広島	10
福岡	9月10日（日）	ホテルモントレ ラ・スール福岡	14
沖縄 オンライン開催	9月2日（土）	ロワジールホテル那覇	2
合計			1,543

都道府県別出席者数

都道府県名	出席者数（世帯数）	前年度出席者数（世帯数）	都道府県名	出席者数（世帯数）	前年度出席者数（世帯数）
北海道	2	4	滋賀	0	0
青森	1	0	京都	0	2
岩手	1	0	大阪	3	0
宮城	10	12	兵庫	6	4
秋田	0	0	奈良	0	1
山形	3	0	和歌山	0	0
福島	12	8	鳥取	0	0
茨城	27	23	島根	0	1
栃木	27	22	岡山	3	0
群馬	11	10	広島	8	9
埼玉	91	81	山口	2	1
千葉	66	52	徳島	1	1
東京	397	329	香川	1	1
神奈川	734	618	愛媛	1	0
新潟	11	10	高知	1	0
富山	3	5	福岡	7	8
石川	4	3	佐賀	3	2
福井	0	0	長崎	1	0
山梨	16	16	熊本	2	3
長野	17	16	大分	1	0
岐阜	4	1	宮崎	0	1
静岡	51	63	鹿児島	1	0
愛知	11	6	沖縄	2	1
三重	1	5	合計	1,543	1,319

PERSON

人間科学部 人間科学科 准教授

五十嵐 美樹（いがらし みき）

東京大学大学院修士課程修了。東京大学科学技術インタープリター養成プログラム修了。2020年より東京大学大学院情報学環客員研究員。2022年より東京都市大学人間科学部准教授。ジャパンGEMSセンター特任研究員。NHK高校講座「化学基礎」レギュラー出演中。環境省浮体式洋上風力発電広報アンバサダー。スタディサプリ中学講座理科講師。国際科学オリンピック応援団。理系女子未来創造プロジェクト理事。日産財団「第1回リカジョ賞」準グランプリ受賞。日本臨床工学会「第1回 Ideal CE賞」受賞。

好きなことは諦めず、挑戦し続ける

五十嵐 美樹准教授は、日本各地で開催するサイエンスショーを通して、科学のおもしろさを伝える活動をしています。主にこの活動が評価され、2022年には「Falling Walls Science Breakthrough of the Year 2022」サイエンスエンゲージメント部門にて日本人で初めて「世界の20人」に選出されました。この賞は、人々の生活に対する長期的な改善と科学的発展に不可欠となるような機会を提供する個人や団体に与えられるものです。

現在、研究者・教育者として幅広く活躍する先生ですが、小学生の頃はヒップホップダンスにのめりこんでいました。学校で自主的にダンスの発表会を開くなど、「自分の好きなことがあったら、夢中になる子どもでした」と振り返ります。中学生のときに、「理科の授業で、プリズムによる分光実験で虹ができる原理について知ったことをきっかけに、科学に興味をもつようになりました」と語ります。

ダンスと科学技術の両方が求められる場所を探して

先生は大学生時代、将来はダンサーになるか、研究者になるかのどちらかだろうと思い、ダンスサークルでの活動とリニアモーターカーなどに利用される超伝導体物質の研究に励んでいました。その後、社会の中で実装される科学技術に興味を持ち、エンジニアとして企業で働き始めた先生は、「これまで続けてきたダンスと科学技術の知識を合わせた活動ができないか」と考えました。そして、全国の科学館に企画書を送り、実験教室を始めました。「子どもたちの反応もよく、自分が何かの役に立つことができていると感じ、独立を目指して動き始めました」とサイエンスエンターテイナーとしての活動を始めたきっかけを語ります。

サイエンスショーへのこだわり

先生のサイエンスショーは、ただ理科の実験を行うだけでなく、エンターテインメントとしての要素があることが特徴です。例えば、生クリームからバターを作る実験では、偶然通りかかった人が足を止めて実験を見てくれるように、先生の表現方法であるダンスを踊りながらバターを作るサイエンスショーとなっています。「科学に関心が無かった子どもが、科学に興味をもつことができる工夫をしています。また、参加した子どもとご家族が会話をし、一緒に楽しめるようにするにはどうしたらよいかを考えています。そして、やって終わりではなく実施したサイエンスショーが子どもたちにどのような影響を与えたのか客観的に評価し、研究としてまとめています」と説明しました。

人生は1回きり、やりたいことに挑戦してほしい

五十嵐先生は、2022年9月より本学の教壇に立つことになりました。「大学と連携することで、地域連携やカリフォルニア大学とのSTEM教育※連携ワークショップなど、これまで自分一人ではできなかったことができるようになりました」と大学での活動を話します。そして、「日本の子どもたちは、科学の成績が高い一方で、科学を楽しく役立つものとして捉えていない傾向があります。だからこそ、科学をエンターテインメントとして楽しむ機会を積極的に提供したいと考えています。大学で多くの企画を実施していくなかで、科学をどのようにして伝えるか、学生と一緒に考えていきたいと思っています」と今後の活動について力強く話しました。

学生に対して先生は、「人生は1回きりしかないので、やりたいことや興味のあることに飛び込んでほしいです。キャリアを考えるときに、既にある職業に自分を近づけて行くことは、もちろんよいことだと思います。しかし、自分のやりたいことと世の中にある職業が合わなかった場合には、『今はない職業』の可能性も考え、諦めずに自分の興味が求められる場所を探してほしいです。くじけそうになることも多くあると思いますが、自分で自分のことを励ますことも重要です」と自身で道を切り開いてきた経験をもとに語りました。

※「Science, Technology, Engineering, Mathematics」科学・技術・工学・数学の教育分野を総称した言葉。

全国各地で行っているサイエンスショーの様子

本学で主催した
カリフォルニア大学との
STEM教育連携
ワークショップの様子

過去の事例を用いて、企業にとって最適な合意形成を図るためのシミュレーションモデルを構築

環境学部 環境経営システム学科
岡田公治（おかだ こうじ） 教授

1988年静岡大学工学部精密工学科卒業。1993年同大学大学院電子科学研究科電子応用工学専攻博士後期課程修了。日立製作所を経て、2015年に東京都市大学知識工学部経営システム工学科准教授、2021年に同大学環境学部環境経営システム学科教授に就任、現在に至る。2023年に日本システム・ダイナミクス学会JSDカンファレンス2023優秀発表賞を受賞。

これまで、企業が新規ビジネスの企画・検討・設計を行い、経営判断を下すとき、経営会議に参加する人の経験と勘が大きく影響していました。しかし、このようなやり方は主観的なものであり、合意形成を図るには根拠が乏しいという問題点があります。

そこで、岡田公治教授は、企業が客観的な経営判断を下すことができるように、過去の事例から得られる定量的なデータを用いた「シミュレーションモデル」の構築を研究しています。

定量的なデータから、シミュレーションを行う

新規ビジネスを考えるとき、これまでは「ビジネスモデルキャンバス」とよばれる手法を用いて、提案を行っていました。（図1）しかし、この手法は作成者の主観によるところが大きく、定性的であり、条件を変更したときに何が起こるかを客観的に推測できないという課題がありました。そこで先生は、導入を検討する新しい施策が経営にどのような影響を及ぼすかを客観的に把握するためのシミュレーション方法を考案しました。

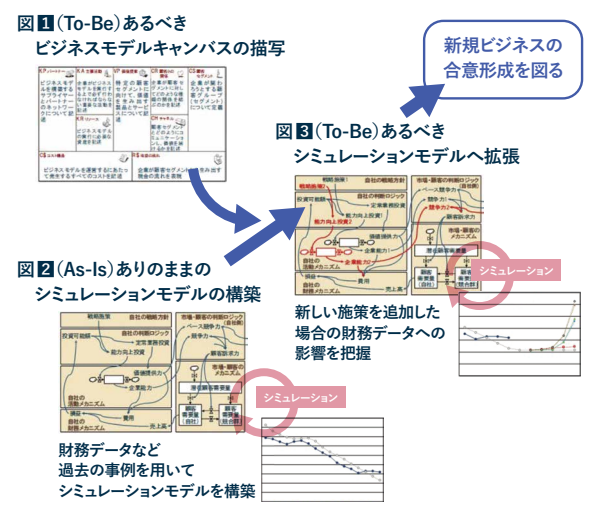
ビジネスの現場では、意思決定や採用した施策の結果に自然法則のような規則性がありません。そこで、客観的なシミュレーションを行うための根拠として過去の事例を用います。「特に『財務データ』に着目し、企業が採用した過去の施策と『財務データ』の変動の関係性を確認していくことで、定量的なデータから現在の状況を再現するシミュレーションモデルを構築できるのではないかと考えました」と先生は説明します。

シミュレーションモデルを最適化し、新しい施策が与える影響を把握する

まず企業の財務データなどを用いて、シミュレーションモデルを構築します。そのモデルから予測される結果と過去の現実のデータを比較しながらチューニングを行います。さらに、事業分野の特性や時代背景を考慮したデータを蓄積していくことで、より正確で最適なシミュレーションモデルを構築することができます。（図2）

次に、構築したシミュレーションモデルにビジネスモデルキャンバスの新しい施策を追加したシミュレーションモデルへと拡張し、これを活用することで、将来、財務データへ与える影響を大まかに把握します。（図3）先生は、「これにより、経営会議で提案される様々な新しい施策について、ビジネスモデルキャンバスを用いた定性的な判断に加え、定量的データに基づく判断を行うことが可能になります」と話します。

●シミュレーションモデルの構築から合意形成までの流れ



様々な事業分野で利用できるシミュレーションモデル構築ガイドの作成

一般の人々が、今までこのようなモデル構築の過程を踏むことは容易ではありませんでした。先生は今後の取り組みについて「様々な事業分野で利用できる『シミュレーションモデル構築ガイド』を作成していくことを考えています。このガイドに従って、シミュレーション方法が活用できるようになれば、誰もが自社の事業分野や状況に適したシミュレーションモデルを構築できるようになるでしょう」と話します。正解がないとされる企業変革の計画において、納得できる合意形成が図れるようになることを先生は期待しています。

紹介

troduction

交通事故のない社会を目指し 現場で集めたデータに基づき 新たな安全施策を提案する

建築都市デザイン学部 都市工学科

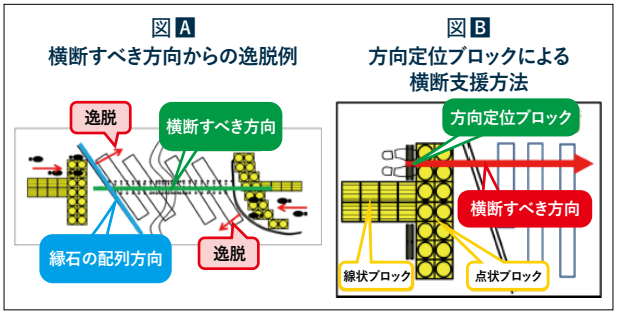
稲垣具志（いながき ともゆき） 准教授

2001年大阪府立大学工学部電子物理工学科卒業。2008年大阪市立大学大学院工学研究科後期博士課程修了。視覚障がい者や子どもの道路横断に関する研究で一般社団法人交通工学研究会などから多数の受賞歴を持つ。2021年に東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授に就任、現在に至る。

稲垣先生は、日常生活における交通安全について、独自の実験データに基づき研究を行い、視覚障がい者や子どもたちが安全に暮らすことができる社会を目指しています。地域や学校への交通安全啓発に取り組むとともに、研究を行う際には、視覚障がい者や子どもたちの協力を得るなどして、現場で実験を行うことを大切にしています。

交通安全におけるユニバーサルデザインの取り組み

視覚障がい者は、まちの中にある様々な情報をヒントにして行動しています。道路の横断に着目すると、歩道と車道の境界部分にある縁石の配列方向を頼りに進むべき方向を判断するケースが多く見受けられます。しかし、横断歩道周辺の道路の形状によっては、進む方向を適切に定められず、横断歩道から逸脱してしまう可能性があります。（図A）先生は、この問題を解決するため「横断方向を定めるために信頼のおける誘導方法として『方向定位ブロック』の活用を提案し、既にある道路への最適な設置方法や有用性などについて、視覚障がい者の実際の歩行データをとりながら、ユニバーサルな観点で検討しています（図B）」と取り組みについて話します。

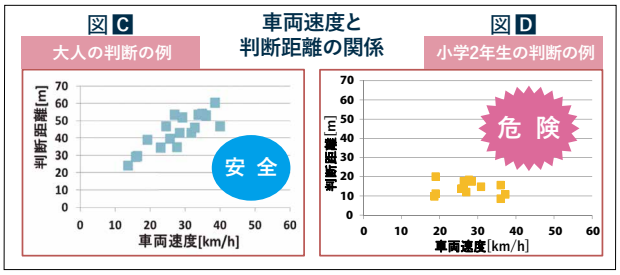


また、ICT技術の進化が交通バリアフリー施策に与える影響について先生は「視覚障がい者を支援するスマートフォンのアプリが、ますます進化しています。例えば、信号機にセンサーを設置して視覚障がい者がもつスマートフォンに、信号の切り替わりのタイミングや、青信号の方向を通知するシステムも実用化されています。ICTの活用により視覚障がい者のより安全・安心な移動環境が実現することで、生活の幅が豊かに広がる可能性があります」と将来性への期待を語ります。

子どもたちの実態を調査し、交通安全教育に活かす

稲垣先生は、子どもたちの交通安全についての研究にも取り組んでいます。人が道路を横断するときには、近づく車両の位置を最初に確認します。次に、その車両の動きに対して自分が安全に道路を横断することが可能かを考えます。そのうえで、横断をするか、しないかを決めて行動します。このように、「認知」「判断」というプロセスを経て「行動」にうつります。これまでは、子どもたちの車両に対する「認知」に重点をおいた研究と交通安全教育が行われてきました。しかし、子どもたちの飛び出し事故は「認知」以外の要因も考えられます。そこで、先生は「子どもたちが道路横断の際に行う『判断』に注目することで、新たな発見や解決策が出てくるのではないかと考えました」と研究を始めた経緯を説明します。

先生が行った実験は、小学2年生の子どもが遠くから接近してくる車両に対し、もう安全に横断できないと判断する距離を計測するものでした。大人で同じ実験を行うと、車両速度が増すにつれ判断距離が長くなります。（図C）しかし、実験に参加した子どもたちの多くは、車両速度に関係なく横断の可否を判断していることがわかりました。（図D）「保護者には自分の子どもの横断能力を過大評価する傾向があることも分かっています。個々の特性に合わせたきめ細やかな安全教育の実践には、家庭での関心と正しい理解が重要です」と先生は研究内容について話をします。この研究結果は、先生の交通安全セミナーなどで活かされています。



Library

図書館のご利用案内について

図書館は、ご家族もご利用いただけます。

ご家族（一般の方）のご利用資格は、
18才以上（高校生はご利用できません）となります。

▶ご利用の前に、こちらのQRコードの内容を必ずご確認ください。

Library Information

図書館の詳しい概要や
開館時間の変更・臨時休館日は
こちらのQRコードをご確認ください。

【世田谷キャンパス図書館】

【横浜キャンパス図書館】

本学教員 新刊著書紹介

《世田谷》

末繁雄一 准教授
（都市生活学部　都市生活学科）

都市感覚を鍛える観察学入門
まちを読み解き、まちをつくる

平本一雄、末繁雄一著

2023年7月
晶文社／3,190 円（税込）

《横　浜》

宮地英生 教授
（メディア情報学部　情報システム学科）

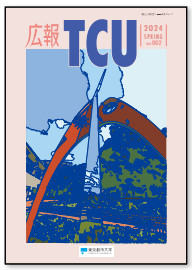
可視化と科学・文化・社会

宮地英生ほか共著

2023年10月
コロナ社／4,180 円（税込）

ここで紹介された著作物は《　》内に表示されたキャンパスの図書館に所蔵しています。閲覧を希望される方は、各図書館で配架場所をお尋ねください。

Campus Spot on Cover



【横浜キャンパス】中庭・モニュメント

横浜キャンパスの正門を抜けると、中庭にひときわ目立つ赤いモニュメントがあります。これは、1997年の学部開設記念の一環として設置されたもので、作者は1998年、長野冬季オリンピックの聖火台等を手掛けられた、彫刻家の菊竹清文氏です。キャンパスで学ぶ学生たちが、より豊かな情報の世界へアクセスし、人間的な情報時代の未来を創造することを願って「ACCESS」と名付けられたこのモニュメントは、時計としての機能を備えており、環境の変化と時の流れを「情報彫刻」で表現しています。

広報TCU vol.2　2024年1月22日発行（年2回発行）　○編集・発行：東京都市大学 大学運営課　E-mail：toshidai-pr@tcu.ac.jp

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C016261